

ブロッコリー*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

薬剤名	系統区分	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	根 こ ぶ 病	ベ と 病	菌 核 病	苗 立 枯 病	黒 す す 病	根 朽 病	黒 腐 病	黒 斑 細 菌 病	花 蕾 腐 敗 病	軟 腐 病
ベジキーパー水	生物農薬	-		*h	-								◎		◎	
マスタピース水	生物農薬	-		1	-									◎	◎	◎
Zボルドー水	無機	M1		-	-										◎	
クプロシールドFL	無機	M1		-	-									◎	◎	
コサイド3000DF	無機	M1		-	-										◎	
アミスター20FL	Q o I	11		3	3			◎		◎						
ファンタジスタ顆水	Q o I	11		3	3			◎		◎						
メジャーFL	Q o I	11		1	3			◎	◎	◎						
アフエットFL	アミド	7		1	3			◎		◎	◎					
カンタスDF	アミド	7		7	2			◎								
レーバスFL	アミド	40		7	2			◎								
バリダシン液5	抗生物質	U18		1	3							◎				
マイコシールド水	抗生物質	41		14	2										◎	
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		14	2			◎								
ペンレート水	ベンゾイミダゾール	1		7	3			◎								
キノンドー水40	有機銅	M1		14	3							◎	◎			
ヨネボン水	有機銅	M1		1	4			◎				◎				
リゾレックス水	有機リン	14		*e	2					®						
				21	1					®						
エトフィンFL	他	22		1	3			◎								
オラクル顆水	他	21		*g	2		◎									
				1	☆	◎										
オラクル粉	他	21		*g	2		◎									
オリゼメート顆水	他	P2		*a	1	☆						◎	◎			
オリゼメート粒	他	P2		*a	1							◎				
スターナ水	他	31		14	2								◎		◎	
セイビアーFL20	他	12		3	3			◎								

ブロッコリー*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	根 こ と 病	べ と 病	菌 核 病	苗 立 枯 病	黒 す す 病	根 朽 病	黒 腐 病	黒 斑 細 菌 病	花 蕾 腐 敗 病	軟 腐 病
ダコニール1000FL	他	M5		*d	2			◎								
				*a	1		◎									
ネビジン粉	他	36		*b	1		◎									
ネビリュウ粉粒	他	36		*b	1		◎									
パレード20FL	他	7		1	3				◎		◎					
ピシロックFL	他	U17		1	2			◎								
フロンサイドSC	他	29		*g	1		◎									
フロンサイド粉	他	29		*b	1		◎									
ライメイFL	他	21		7	4			◎								
ランマンFL	他	21			3	3		◎								
					14	1		◎								
					*f	1	☆	◎								
シグナムWDG	QoI・アミド	11・7		7	2		◎	◎		◎						
フォリオゴールドFL	アミド・他	4・M5		*d	2		◎									
ベジセイバーFL	アミド・他	7・M5		*d	2		◎	◎								
カスミンボルドー水	抗生物質・無機	24・M1		7	4								◎			
ホライズンDF	他・QoI	27・11		1	3			◎			◎					
カセット水	他・抗生物質	31・24		14	2								◎			
ナレート水	他・有機銅	31・M1		14	2											◎
プロポーズ顆水	他・他	40・M5		*d	2			◎								

*1:茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。

*a:定植時 *b:播種又は定植前 *d:出蕾前(但し収穫21日前まで) *e:育苗期

*f:定植前日～当日 *g:定植前 *h:発病前～発病初期

◎:リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー*¹(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	ア ブ ラ ハ ム シ 類	カ ブ ラ バ チ シ 類	ア オ ナ ガ シ 類	コ ナ メ イ シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ シ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ シ 類	ウ オ タ バ コ シ 類	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ケ シ ム シ 類	キ ボ シ ム シ 類	
スピノエース顆水	スピノシ	5		3	3					◎◎												
アタブロン乳	I GR	15		21	2					◎◎						タ						
カウンター乳	I GR	15		7	2						◎◎											
カスケード乳	I GR	15		7	2			◎		◎◎												
ファルコンFL	I GR	18		3	2							◎◎										
マッチ乳	I GR	15		7	3								◎									
マトリックFL	I GR	18		1	3							◎										
モベントFL	殺ダニ	23		7	3		◎◎			◎◎												
フェニックス顆水	ジアミト°	28		1	2						◎◎	◎◎	◎◎									
プリロッソ粒	ジアミト°	28		*i *j	1	▲	◎◎			◎◎												
プレバソンFL 5	ジアミト°	28		*i i	1 3	☆				◎◎				◎								
プレバソン粒	ジアミト°	28		*i *j	1	▲				◎◎												
ベネビアOD	ジアミト°	28		1	3		◎◎			◎◎				◎								
ベリマークSC	ジアミト°	28		*i	1	☆	◎◎			◎◎				◎◎								
ヨールFL	ジアミト°	28		1 *i	3 1	☆	◎◎			◎◎			◎◎	◎◎				◎				
ディアナSC	スピノシ	5		1	2		◎			◎◎		◎◎	◎◎	◎◎		◎◎						
アクタラ粒5	ネコチノイト°	4A		*a *h	1 1					◎◎			◎									
アクタラ顆溶	ネコチノイト°	4A		1	3		◎															
アドマイヤーFL	ネコチノイト°	4A	劇	3	2		◎															
アドマイヤー1粒	ネコチノイト°	4A		*d	1		◎															
アルバリン顆溶	ネコチノイト°	4A		3	2		◎															
スタークル顆溶	ネコチノイト°	4A		*d	1	☆	◎				◎											
ダントツ溶	ネコチノイト°	4A		3	3		◎			◎◎		◎◎										
ダントツ粒	ネコチノイト°	4A		*a *d *h *h	1	▲ ◇ ◆	◎ ◎ ◎	ギ		◎◎ ◎◎		◎◎ ◎◎										
ベストガード溶	ネコチノイト°	4A		1	3		◎◎															
ベストガード粒	ネコチノイト°	4A		*d *a	1		◎◎ ◎◎															
モスピラン顆溶	ネコチノイト°	4A	劇	14	3		◎◎			◎◎			◎◎									
モスピラン粒	ネコチノイト°	4A		*e *d	1		◎◎ ◎◎			◎◎			◎◎									
バダンSG溶	ネイストキシ	14	劇	7	4					◎												
リーフガード顆水	ネイストキシ	14	劇	7	3		◎			◎												
アディオン乳	ピレスロイト°	3A		3	5		◎															
ガードベイトA粒	ピレスロイト°	3A		*L	5													◎				
トレボン乳	ピレスロイト°	3A		1	3					◎												
フォース粒	ピレスロイト°	3A	劇	*d	1													◎				
プリンスFL	フェニルピラゾール	2B	劇	30 *b	2 1	☆					◎◎	◎◎										

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー*1(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ マ シ ン 類	ア ザ ミ ウ マ シ ン 類	カ ブ ラ ハ ム チ	ア オ ナ シ ン	コ ナ シ ン	ヨ ト ウ シ	シ ロ イ モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ト ウ	ウ ワ バ シ ン	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ケ シ マ ル ト ビ ム シ	
																			*h *m *n
プリンス粒	フェニルピラゾール	2B		*h *m *n	1	◆ ▲ △						◎							
アニキ乳	マクロライド*	6		3	3				◎			◎							
アフアーム乳	マクロライド*	6		3	3				◎			◎			◎				
オルトラン粒	有機リン	1B		*d	1		◎					◎				◎			
ジェイエース粒	有機リン	1B		*d	1							◎							
ダイアジノン乳40	有機リン	1B	劇	30	2		◎			◎	◎						◎		◎
ダイアジノン粒5	有機リン	1B		*f	2												◎		◎
				*d	1												◎		
				30	2														◎
ダイアジノン粒10	有機リン	1B	劇	30	2											◎			
マラソン乳	有機リン	1B		3	5		◎	◎	◎										
アクセルFL	他	22B		1	2					◎		◎	◎						
アクセルベイト粒	他	22B		1	2												◎		
ウララDF	他	29		1	2		◎												
グレーシア乳	他	30		7	2			ギ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
コテツFL	他	13	劇	3	2					◎	◎	◎	◎						
コルト顆水	他	9B		1	3		◎												
トランスフォームFL	他	4C		1	3		◎												
トルネードエースDF	他	22A		14	2					◎	◎								
ハチハチ乳	他	21A	劇	7	2		◎			◎	◎								
ファインセーブFL	他	34	劇	3	2			◎		◎	◎								
ブレオFL	他	UN		7	2					◎			◎						
プロフレアSC	他	30		1	3							ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	
キックオフ顆水	ジアミド*・ネオ コチノイト*	28・ 4A		*k	1	☆	◎			◎	◎			◎					
ジュリボFL	ジアミド*・ネオ コチノイト*	28・ 4A		*i	1	☆	◎	ギ		◎	◎		◎						
				1	3		◎	◎	◎	◎	◎								
ミネクトデュオ粒	ジアミド*・ネオ コチノイト*	28・ 4A		*c	1		◎	◎		◎	◎		◎						
				*d			◎	◎	◎	◎									
				*h *n				◎											
アフアームエクセラ 顆水	マクロライド*・ IGR	6・ 15		7	3						◎	◎	◎	◎					

*1:茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

◇:覆土後セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から散布する。

◆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する。

△:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの床土に均一に混和する。

▲:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

*a:育苗期後半 *b:定植前まで *c:播種覆土後～育苗期後半 *d:定植時

*e:定植前日～定植当日 *f:播種時又は定植時 *h:播種時 *i:育苗期後半～定植当日

*j:育苗期後半～定植時 *k:定植前日～定植時 *l:生育初期

*m:播種時～定植前 *n:播種前

ギ:ネギアザミウマ タ:タマナギンウワバ ハ:ハナヤサイ類での登録

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	春まき					—	—						
	黒腐病			—	—	—							
	夏まき (秋どり)								—	—	—	—	
	黒腐病								—	—	—	—	
虫害	コナガ							—	—				
	アオムシ (モンシロチョウ)				—	—	—	—	—				
	ヨトウムシ									—	—	—	
	アブラムシ類		—	—	—	—	—	—	—				

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。 2. 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。 3. 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 4. 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 オラクル粉剤 全面処理 30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a ネビジン粉剤 全面処理 20~30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a フロンサイド粉剤 全面処理 30~40kg/10 a 作条処理 15~20kg/10 a 5. 定植前日~当日に次の薬剤をセル苗に灌注する。 ランマンフロアブル△ 500倍 	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて、高温多湿の年は、夏まきに多発する。 春先にアブラナ科作物を栽培し、秋も連作すると多発しやすい。 トウモロコシやジャガイモの後作では被害が軽い傾向がある。 薬剤は地層10~15cmの土壌と十分に混合する。
	生育期および収穫後	・発病株は根、特にこぶを残さないように早めに処分する。また収穫後、残渣を丁寧に処分し畑にすきこまないようにする。	△ 2ℓ/セル成型育苗トレイ(30×60cm、土壌量約2.5~7ℓ)

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種をさげ、苗床の過湿に注意する。 2. 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌はリゾクトニア菌の場合が多いが、育苗中に雨が多い年にはピシウム菌によることもある。 #リゾクトニア菌にのみ有効。
	育苗期	・次の薬剤を3ℓ/㎡灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍	
黒腐病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	各種アブラナ科植物に発生し、土壤伝染する。 病原細菌は葉緑の水孔および葉や茎に生じた傷口から侵入する。ブロッコリーは本病に感受性が高い。 5月および9～10月頃、比較的気温が低く雨の多い年に発生しやすい。特に台風後に多発し、害虫などによる食害は発生を助長する。 *野菜類での登録
	生育期	1. 害虫の防除を行う(害虫の項参照)。 2. 発生が認められたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 キノドー水和剤40 800倍 Zボルドー(水)* 500倍 3. 台風などで茎葉が傷ついたときはただちに上記薬剤を散布する。	
根朽病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	キャベツ、カリフラワーなどに被害が多く、土壤伝染する。 秋どりの幼苗期～生育中期にかけて発生が多く、強風は本病の発生を助長する。
	育苗期～生育期	1. 植え傷み、特に地際部の傷に注意する。 2. 発病株は早めに処分する。	
アブラムシ類	生育期	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 3000倍 ウララDF 2000～3000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍	
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF* 1000～2000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ		<p>・露地栽培ではコナガコンを8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10a 又は20cmチューブを200本/10a 設置する。施設栽培ではハウス内の天井に近い位置に100～400m/10a (100mリール) となるよう固定する。</p>	<p>発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には心葉を好んで食害し、花蕾期には花も加害する。 フェロモン剤の使用に当たっては可能な限り広範囲での使用が望ましい。野菜類での登録。</p>
	育苗期	<p>1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。 2. 次の薬剤のいずれかを処理する。</p> <p>ダントツ粒剤 株元散布 #2 0.5g/株 プレバゾンフロアブル5 セル苗等に灌注 #1、#3 100倍 プレバゾン粒剤 株元散布 #4 1g/株</p>	<p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～40)あたり0.5ℓ。土耕の育苗床では使用できない。 #2育苗期後半 #3育苗期後半～定植当日 #4育苗期後半～定植時</p>
	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アタブロン乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバゾンフロアブル5 2000倍</p>	<p>*野菜類での登録</p>
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗期	<p>1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。 2. 次の薬剤のいずれかを株元処理する。</p> <p>ダントツ粒剤 育苗期後半 0.5g/株 プレバゾン粒剤 育苗期後半～定植時 1g/株 モスピラン粒剤 定植前日～定植当日 0.5g/株</p>	<p>夏が高温乾燥の時に多発する傾向がある。幼苗期に加害されると芯止まりとなり被害が大きい。</p>

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ))	幼苗期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 プリンスフロアブル 2000倍 プレバゾンフロアブル5 2000倍	*野菜類での登録
ヨトウム シ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団 で見つけ次第葉ごと処分 する。 2. 発生を見たら次の薬剤のい ずれかを葉裏に丁寧に散布 する。 コテツフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	5～6月と9～10月の 2回発生する。 若齢期は表皮を残し 葉肉をかすり状に食害 する。 老熟幼虫は薬剤が効 きにくい。
ハスモン ヨトウ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団 で見つけ次第葉ごと処分 する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のい ずれかを散布する。 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	春から初冬まで数回 発生するが、多くなる のは8月下旬以降であ る。 中齢以降には薬剤が 効きにくい。
ネキリム シ類	定植時～ 生育初期	1. 定植時に次の薬剤を土壌表面散 布する。 ダイアジノン粒剤5 6kg/10a 2. 生育初期に次の薬剤を株元散 布する。 ガードベイトA(粒) 3kg/10a	発生量が多くない時 は、被害のあった株元 の土を調べ、幼虫を捕 殺する。
キボシマ ルトビム シ	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布す る。 ダイアジノン乳剤40 700倍	